



平館高生(左側2人)の手ほどきを受け、染色を体験する児童

まちのニュース

話題 ピックアップ

情報をお待ちしています。
広報広聴係(☎・内線1202)

きれいな紫模様に心弾む

平館高が平笠小児童を招き紫根染の体験授業

平館高は10月31日、平笠小5・6年生14人を招き紫根染の体験教室を行いました。

平館高家政学科3年の生徒9人が講師を務めた体験教室では、紫根染の歴史や作業工程などを紹介。児童は、輪ゴムやビー玉などを使って思い思いの模様を付け、用意されたハンカチを鮮やかな紫色に染め上げました。

今村奏瑛さん(6年)は「だんだんきれいな紫色に染まっていくのが楽しかった。ビー玉と割り箸を使った模様がはっきり出て良かった」と声を弾ませました。



さまざまな模様が浮かび、世界に一つだけのハンカチが完成

西根ライオンズクラブ 平和ポスターコンテスト 表彰



最優秀賞に選ばれた(左から)下館さん、岩渕さん、館柳さん

世界がつながる願い込め

ライオンズのポスターコンテストで14人が入賞

第38回平和ポスターコンテスト表彰式(西根ライオンズクラブ主催)は11月5日、市商工会館で開かれ、入賞者14人に賞状が贈られました。

「ひとつになって」をテーマに、西根・松尾地区の小中学生112人が応募。岩渕六花さん(柏台小6年)、下館瑠毅さん(平館小6年)、館柳星蘭さん(松尾中1年)の作品が最優秀賞に選ばれました。下館さんは「ハトが地球に幸せを運んで、平和になってほしいと思いを込めた。絵を見た人にも幸せを届けられたらうれしい」と受賞を喜びました。



平館こども園の園児がかわいらしい踊りを披露し、会場を盛り上げた(10月25日、平館ふれあいまつり)



西根中の生徒が、カードゲーム形式(HUG)で災害時の避難所運営を疑似体験(11月17日、西根中防災学習)



記念写真の撮影や講話、体験イベントで市民が市立病院を身近に感じた(11月16日、市立病院まるわかりフェスタ)

地域の情報化を伴走支援

田村さんが国の副業型地域活性化起業人として着任

本市平館出身で、ソフトウェア開発などを手がけるレイ・フロンティア(東京都千代田区)代表取締役の田村建士さんと市との副業型地域活性化起業人に関する協定締結式は11月4日、市役所で行われました。

同起業人は、都市圏で働く個人と協定を結び、その知見を生かす国の制度。田村さんは市を月1回以上訪問するなどし、専門的立場から行政や地域のDX推進を支援します。

田村さんは「AIやDX化が自然に業務に溶け込んでいくよう、取り組んでいきたい」と力を込めました。

副業型地域活性化起業人 協定締結式



市との協定締結式に臨んだ田村さん(左)



インターネットの使い方について、会場の聴衆に呼び掛けた武田さん

ハロウ安比較によるこそ

市民を招き相互理解を深める国際文化デーを開催

ハロウ安比較は11月1日、国際交流とチャリティーを目的としたイベント「国際文化デー」を開きました。

令和4年8月の開校後、初めて市民に公開する形で開いたチャリティーアイベントには、市民約40人が参加。講堂に設けられたブースでは、生徒や教職員の出身国代表的なお菓子などを販売し、参加した市民と交流を深めました。同校11年生(日本の高校1年生に当たる)でブラジル出身のリヴィアさんは「地元の人は親切で優しかった。ブースを楽しんでもらえた」と笑みを浮かべました。

問い合わせる「思いやりの心」

中学生が身近な体験から人権についての作文を発表

第29回中学生による人権尊重に関する意見発表会(盛岡人権擁護委員協議会、市主催)は10月31日、西根中体育館で開かれました。

発表会では盛岡市と岩手地区の中学生9人が、自らの経験から得た考えや意見を発表。「ネットと私たちの関わり方」と題して発表した武田宙樹さん(西根中3年)は「ネットいじめという言葉自体が無い世界になれば」と呼び掛けました。

同日は会場校となった西根中の生徒も発表を聴き、参加者は他者を尊重する大切さを再認識していました。



説明を受けながら、各国の代表的な料理などを味わう参加者



平笠田植踊り保存会が市指定無形民俗文化財「平笠田植踊」の5演目を披露(11月2日、市芸術祭・舞台部門)



IT技術を活用し、起業を志す人を育てるスバルタキャンプin八幡平が今年も開幕(11月1日、市起業家支援センター)



3年目を迎えたあしろマルシェ。買い物や飲食ブースを目当てに訪れた多くの人でぎわった(10月25日、荒屋新町駅前)



安代地区の対象者を代表し褒状を受け取る山本さん夫婦

二人の歩みはダイヤの輝き

結婚60年を迎えた市内の夫婦32組をお祝い

市ダイヤモンド婚を祝う会(市社会福祉協議会主催)は11月13日、いこいの村岩手で開かれ、結婚生活60年を迎えた市内の夫婦に褒状が贈呈されました。

祝う会には、市内対象32組のうち14組が出席。祝宴では、歌や踊りが披露され、出席者は共に歩んできた人生の節目を喜び合いました。出席した山本正一さん、昭子さん=浅沢第2は「結婚生活を振り返ると、いろいろなことがあったけど、今はたくさんのひ孫に囲まれ、楽しく過ごしています」と笑みを浮かべました。



足踏み式脱穀機と千歯こきで、乾燥させた稻の脱穀をする寺田小児童

美味しいお餅が待ち遠しい

寺田小児童が昔ながらの道具で稻の脱穀に挑戦

寺田小5・6年生児童16人は10月23日、昔ながらの機械を使った脱穀作業を体験しました。

児童は、千歯こきと足踏み式脱穀機を使い、自分たちで田植えから刈り取りまで行った「ヒメノモチ」の脱穀に挑戦。体験授業を支援した地域住民に道具の特長や使い方のコツを教わりながら、稻束をかざし、慎重にもみを取り出しました。石井春瑠さん(6年)は「すごく力が必要な作業だった。脱穀機に当てる稻の角度を調整するのが難しかった」と昔の農作業の大変さを学びました。



手引きろくろを使った木地挽きを披露する松尾さん(左から3人目)

いにしえからの技術を体験

市博物館で漆器の木地製作を知る企画展を開催

市博物館では、12月7日まで開いている企画展「木地師金作さんの挽づくり～八幡平市の木地製作の技～」で、漆器の木地製作に関する資料を展示しています。

11月8日は、安代地区在住の松尾清常さんを講師に、木地挽きの体験イベントを開催。参加者は、昔から伝わる手引きろくろの繩引きや木地を削る作業に挑戦しました。花巻市から訪れた菊池ゆかりさんは「繩を引く手に、ぐっと負荷がかかって、思ったより力が要ることが分かった。貴重な体験ができた」と目を輝かせました。



3小学校統合後の学校運営のため、専門部会で検討を進めることを保護者に説明(10月27～29日、松野小・奇木小・柏台小)



10月1日で100歳を迎えた笹木ハツさん(大正14年10月1日生)=若谷地=これからもお元気で(11月14日、むらさき苑)



11月4日で100歳を迎えた川村キミさん(町組)=これからもお元気で(11月14日、むらさき苑)

SNAP GALLERY